

琉球大学学術リポジトリ

第1章URGCC学生調査2011の概要

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 美都雄, Yamada, Mitsuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41250

第1章 URGCC 学生調査 2011 の概要

山田美都雄 (URGCC 推進支援室研究員)

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査の目的は、琉球大学における学士課程教育の質保証及び質向上のためのデータを収集することにある。具体的には、本学の学生の学習経験や学習成果、生活環境等に関するデータを収集し、その分析を通じて今後の本学の教育改善に結びつけることを目指している。さらに、本調査は URGCC^a導入後の効果を検証するという必要性から、そのための比較対象サンプルのデータを得ることを目的として行われるものでもある。

(2) 調査の名称

「琉球大学の教育改善のための学生調査 2011」

※ 呼称として「URGCC 学生調査 2011」を用いる。

(3) 調査対象

本学の学士課程の全学生

(4) 調査方法

質問紙を用いた自記式の集合調査（ただし、医学部 2～6 年次については、年次長の学生を通して実施）。1 年次の学生については、共通教育の英語の授業において、また、2～4 年次の学生については、当支援室が事前に各学部の学務に必修科目等が記載されたリストを提供した上で、各学部において実施を判断した授業において、調査を行うよう依頼した。

(5) 調査実施期間

平成 24 年 1 月～2 月

(6) 主な質問項目

基本的属性項目（性別、年齢等）、琉球大学（大学、学部・学科）への入学志望度、URGCC 学習教育目標の評価項目、琉球大学の教育への満足度、学習時間（事前・事後・自主的）、これまでに受けた授業形態、共通教育・専門教育への学習意識、正課外活動・アルバイトへの参加、家庭背景（親学歴、親の収入、文化的側面）、卒業後進路、等。

(7) 調査票回収率

本調査の回収率について、「全体・学部」の集計、「学部×学年」のクロス集計の結果を以下の表 1-1、表 1-2 にまとめた。表 1-1 に示すように、全体の回収率は 42.1% であった（回収数[N=3065]、在籍者数[N=7273]）。

^a 琉球大学における学士課程教育の質保証を行う全学的取組の総称。

表1-2を見ると、教育学部の1年次は、前期で外国語科目の必要単位数を取り終えることから、回収率が落ち込んでいる。また、農学部2～4年次については、調査時期が多忙な時期と重なったこと等の理由で、やはり回収率が落ち込んでいる。これらの点は、次年度以降の調査に向けた反省として生かしていかなければならない。

また、医学部において2～5年次の回収率が顕著に高いのは、年次長の学生を通じて調査を依頼した結果である。回収率が高いうえに、各教員の負担や事務手続きの煩雑さが大幅に軽減されることを考慮すれば、この方法は最良の方法に見えるが、学生に依頼することによって生じるリスクについても配慮しなければならない。たとえば、他学部においてもこのような高い回収率が得られるかは現状では不明である。この方法の採用については、各学部の事情を鑑みながら、今後の検討課題としたい。

表1-1 全体・学部別回収状況

	全体	法文学部	観光産業科学部	教育学部	理学部	医学部	工学部	農学部
回収率	42.1%	40.7%	54.0%	38.2%	33.4%	57.9%	39.4%	21.0%
回収数	3065	778	341	313	283	514	624	125
在籍者数	7273	1910	631	819	848	888	1583	594

※ 在籍者数は、平成23年度11月1日時点の数値。なお、外国人及び休学者を含む。

※ 回収数、回収率について、全体の数値と各学部合計の数値はデータが独立しているため一致しない。

表1-2 「学部×学年」別回収状況

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
法文学部	回収率	51.3%	31.7%	40.2%	39.9%		
	回収数	229	141	183	225		
	在籍者数	446	445	455	564		
観光産業科学部	回収率	72.8%	61.0%	36.9%	48.1%		
	回収数	107	94	62	78		
	在籍者数	147	154	168	162		
教育学部	回収率	8.7%	53.2%	55.9%	34.4%		
	回収数	17	107	109	78		
	在籍者数	196	201	195	227		
理学部	回収率	53.6%	17.2%	19.4%	40.9%		
	回収数	113	36	37	97		
	在籍者数	211	209	191	237		
医学部	回収率	34.3%	61.9%	88.0%	62.8%	69.8%	25.5%
	回収数	60	109	147	103	67	28
	在籍者数	175	176	167	164	96	110
工学部	回収率	67.2%	34.5%	20.4%	36.6%		
	回収数	248	128	76	172		
	在籍者数	369	371	373	470		
農学部	回収率	59.6%	9.7%	6.3%	9.4%		
	回収数	87	14	9	15		
	在籍者数	146	145	143	160		
学年別平均回収率		49.6%	38.5%	38.2%	38.9%	69.8%	25.5%

※ 在籍者数は、平成23年度11月1日時点の数値。なお、外国人及び休学者を含む。

2. 調査データの特徴

次に本調査のデータの特徴を概観する。性別の構成比、学年の構成比、所属学部 of 構成比、そして学部と学年をクロスさせた構成比について見ていく。なお、第I部の末尾に単純集計結果を付すので、適宜参照されたい。

(1) 男女構成比

まず、男女の構成比であるが、図1-1に示したように、男性が58.6%、女性が41.4%で男性の方が多い。

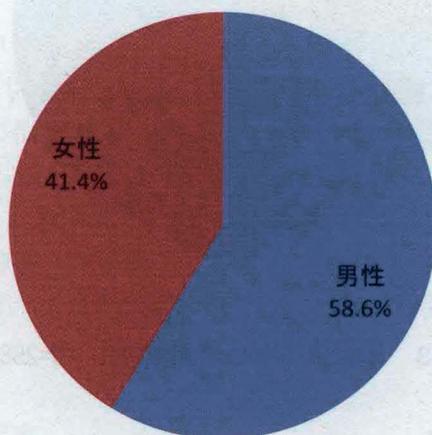


図1-1 調査データの男女構成比 (N=3003)

(2) 学年構成比

学年の構成比については、図1-2に示した。1年次が28.8%で最も多く、次いで4年次、2年次、3年次の順となっている。5年次、6年次は医学部のみのため、その割合は低い。

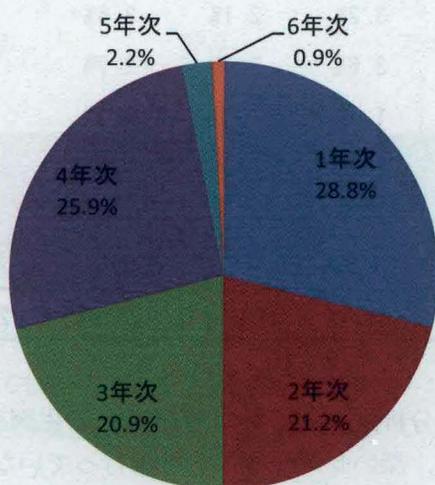


図1-2 調査データの学年構成比 (N=3002)

(3) 学部の構成比

学部の構成比は、図1-3に示すように、法文学部が26.1%で最も高く、次いで、工学部、医学部、観光産業科学部、教育学部、理学部、農学部となっている。

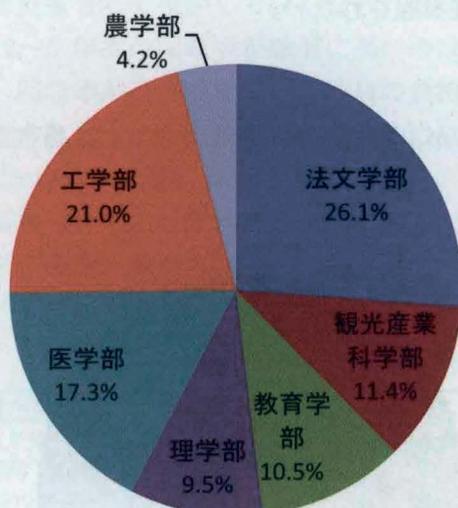


図1-3 調査データの学部構成比 (N=2983)

(4) 「学部×学年」の構成比

学部と学年をクロスさせた構成比については、表1-3に示した。工学部の1年次、法文学部の1年次と4年次で特に高い割合を示している。

表1-3 調査データの「学部×学年」の構成比 (全体パーセント, N=2978)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
法文学部	7.7%	4.7%	6.1%	7.6%			26.1%
観光産業科学部	3.6%	3.2%	2.1%	2.6%			11.5%
教育学部	0.6%	3.6%	3.7%	2.7%			10.5%
理学部	3.8%	1.2%	1.2%	3.3%			9.5%
医学部	2.0%	3.7%	4.9%	3.5%	2.2%	0.9%	17.3%
工学部	8.3%	4.3%	2.6%	5.8%			21.0%
農学部	2.9%	0.5%	0.3%	0.5%			4.2%
合計	28.9%	21.1%	20.9%	25.9%	2.2%	0.9%	100.0%

なお、以降の章における各分析は、あくまでURGCC学生調査2011の結果の概観及び確認程度に留まるものであり、深いレベルでの分析は行っていないことを予め了承されたい。さらなる分析に関しては、別の機会に稿を改めることにしたい。